

# 2020年3月期 第1四半期 決算概要

---

テルモ株式会社

Chief Accounting and Financial Officer

武藤 直樹

2019年8月8日

# 利益が二桁伸長しガイダンス以上のスタート

(億円)

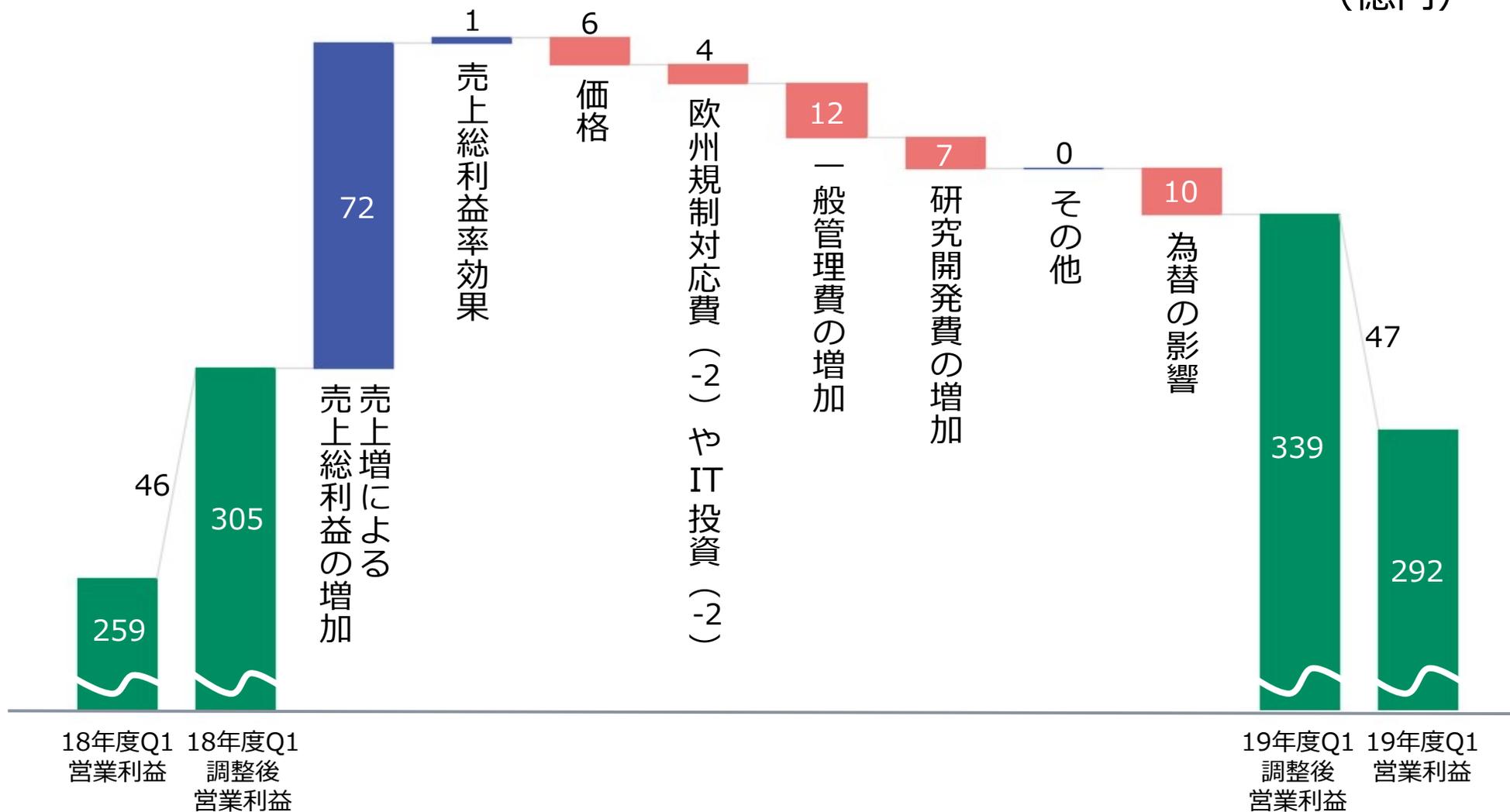
	18年度Q1	19年度Q1	増減率	為替除く 増減率
売上収益	1,430	1,525	+7%	+9%
売上総利益	799 (55.8%)	852 (55.8%)	+7%	+9%
一般管理費	435 (30.4%)	445 (29.2%)	+2%	+4%
研究開発費	113 ( 7.9%)	118 ( 7.8%)	+5%	+4%
その他収益費用	8	4	-	-
営業利益	259 (18.1%)	292 (19.1%)	+13%	+17%
<b>調整後営業利益</b>	305 (21.4%)	339 (22.3%)	+11%	+18%
税引前利益	234 (16.4%)	288 (18.9%)	+23%	
当期利益	181 (12.6%)	228 (14.9%)	+26%	

期中平均レート	USD	109円	110円
	EUR	130円	123円

- 売上収益 : 心臓血管が二桁伸長へ回帰し、全体を牽引
- 調整後営業利益 : 一般管理費を中心に、やや遅めの費用進捗
- 税引前利益 : 前年同期の為替差損23億円に対し、今年度は差損3億円と縮小

# 調整後営業利益増減分析

(億円)

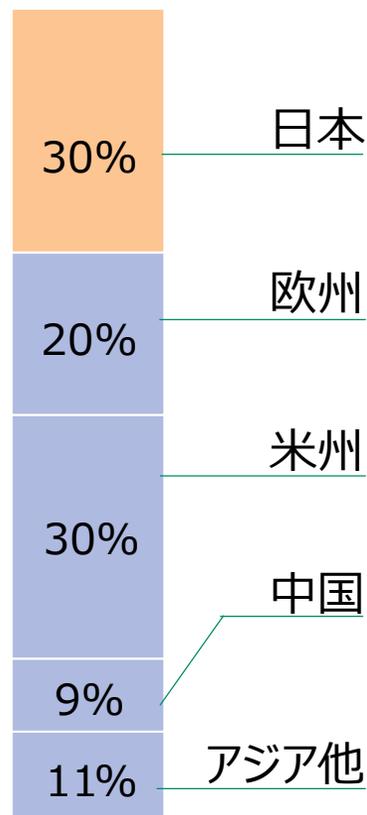


# 地域別売上収益

19年度Q1  
18年度Q1

## 売上収益

100% = 1,525億円



## 売上収益前年比較

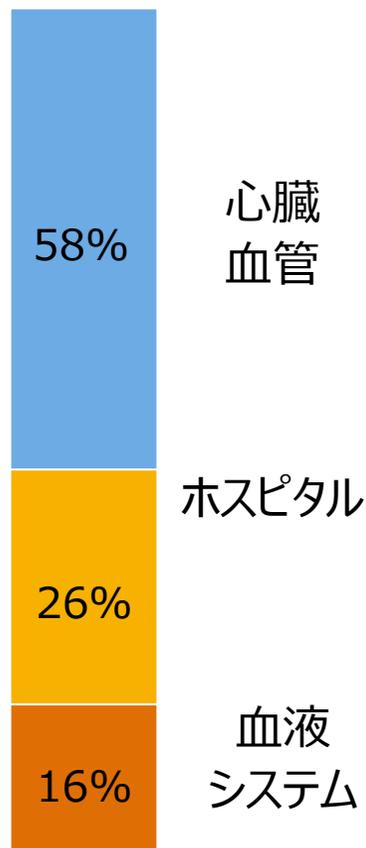
金額(億円)	増減率	コメント
( ) 内は為替影響除く		
日本 19年度Q1: 460 18年度Q1: 440	+4%	TIS事業が二桁伸長に回帰。全カンパニーがプラス伸長
欧州 19年度Q1: 300 18年度Q1: 296	+1% (+6%)	血液のマイナス伸長を、心臓血管がカバー
米州 19年度Q1: 460 18年度Q1: 428	+8% (+8%)	心臓血管とホスピタルが二桁伸長し牽引。新製品の効果でニューロは3割以上の伸長
中国 19年度Q1: 136 18年度Q1: 109	+25% (+31%)	エッセン社DESを含め心臓血管が3割以上の伸長で全体を牽引
アジア他 19年度Q1: 169 18年度Q1: 157	+7% (+11%)	心臓血管が二桁伸長し、ホスピタルのマイナス伸長をカバー

# カンパニー別売上収益

19年度Q1  
18年度Q1

## 売上収益

100% = 1,525億円



## 売上収益前年比較

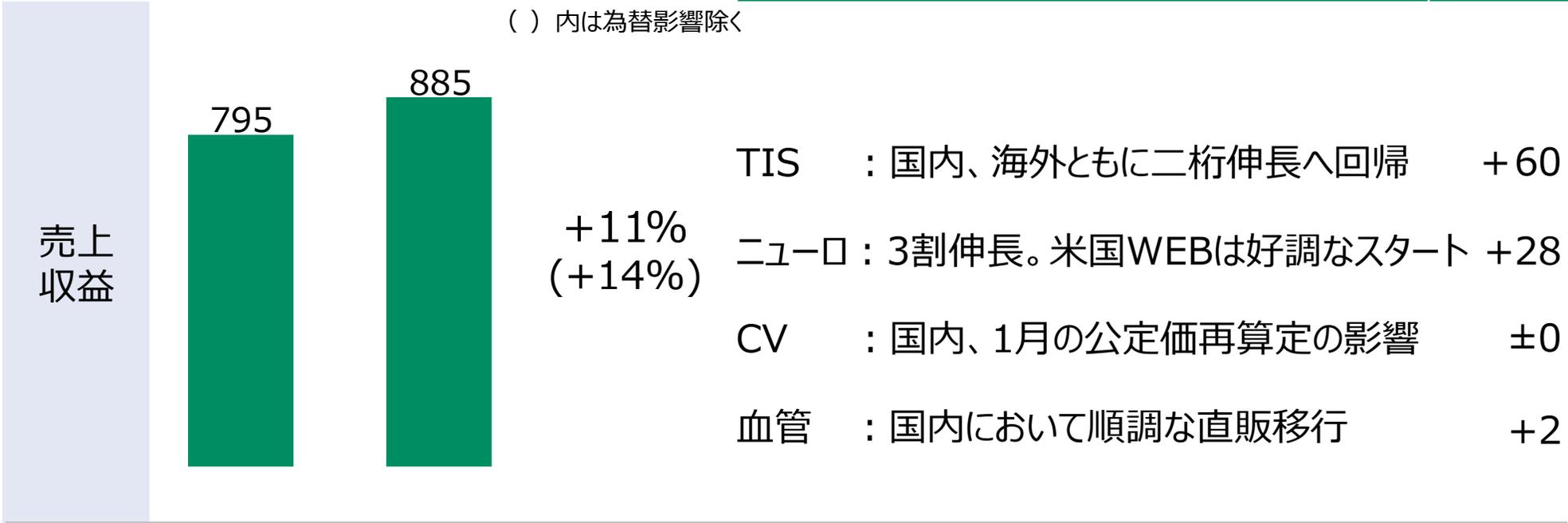
金額(億円)	増減率	コメント
( ) 内は為替影響除く		
心臓血管 19年度Q1: 885 18年度Q1: 795	+11% (+14%)	TISは二桁伸長へ回帰。3割伸長のニューロと合わせ全体を牽引
ホスピタル 19年度Q1: 398 18年度Q1: 388	+2% (+3%)	アライアンス事業がグローバルで3割以上の伸長を継続し全体を牽引
血液システム 19年度Q1: 242 18年度Q1: 246	-2% (+1%)	為替の影響に加え、昨年度末の好調な売上の反動

# 心臓血管：売上、利益ともに二桁伸長

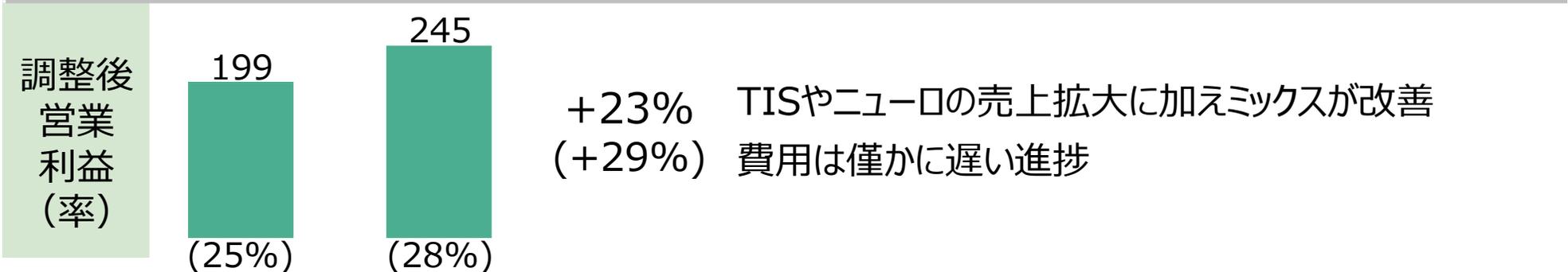
(億円)

	18年度Q1	19年度Q1	増減率	主なトピック	金額
--	--------	--------	-----	--------	----

( ) 内は為替影響除く



- TIS : 国内、海外ともに二桁伸長へ回帰 +60
- ニューロ : 3割伸長。米国WEBは好調なスタート +28
- CV : 国内、1月の公定価再算定の影響 ±0
- 血管 : 国内において順調な直販移行 +2



TISやニューロの売上拡大に加えミックスが改善  
費用は僅かに遅い進捗

# ホスピタル：概ね計画通りのスタート

(億円)

	18年度Q1	19年度Q1	増減率	主なトピック	金額
--	--------	--------	-----	--------	----

( ) 内は為替影響除く

売上 収益	388	398	+2% (+3%)	医療器 : インドネシア皆保険財政難の影響等	-3
				医薬品 : 疼痛緩和や癒着防止材が伸長し	
				輸液剤のマイナス伸長をカバー	±0
				DM・ヘルスケア: 次期血压計への端境期	-1
				アライアンス : 国内外で好調。3割伸長を継続	+13
調整後 営業 利益 (率)	62 (16%)	52 (13%)	-16% (-15%)	対前年度比は、昨年度稼働したテルモ山口D&D社の償却費の影響。費用が先行する今年度Q1においては概ね計画通りの進捗	

# 血液システム：売上は僅かにビハインド、利益は計画通り

(億円)

	18年度Q1	19年度Q1	増減率	主なトピック	金額
--	--------	--------	-----	--------	----

( ) 内は為替影響除く

売上  
収益

246

242

-2%  
(+1%)

血液センター : 海外を中心に、昨年度末の

好調な売上の反動

-4

アフレス治療 : 後継装置への切替えの反動

-1

細胞処理 : 欧州やアジアで二桁伸長

+2

調整後  
営業  
利益  
(率)

34

26

-24%  
(-12%)

為替の影響大。R&D費用の進捗が僅かに早め  
ながらも、概ね計画通りのスタート

(14%)

(11%)

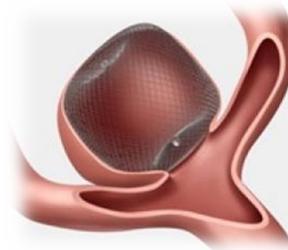
# 主なトピックス

## 全社

- 時差勤務制度導入や在宅勤務制度拡充など、働き方改革を推進（4月）
- 新企業理念体系を制定：社員共通の価値観「コアバリューズ」を新設（4月）
- 譲渡制限付株式報酬制度を導入（6月）

## 事業

- 脳動脈瘤治療用の袋状塞栓デバイス「WEB」を  
米国にて本格発売（4月）
- ステントリーバー「Tron FX」、日本で発売（4月）
- 米オーケストラ・バイオメド社から、薬剤溶出バルーンの  
独占販売権を取得（6月）



# 19年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品	地域	ローンチ	領域	製品	地域	ローンチ
アクセス	ディスタラジアル用止血デバイス	日		医療器	次期シリンジポンプ	日	
心臓	PTCAバルーン	欧亜		医薬品	麻酔用鎮痛剤（フェンタニル注射液）	日	
ペリフェラル	ステント（TRI）	日米			癒着防止材（アドスプレー・ミニ）	日	
脳	袋状塞栓デバイス（WEB）	米	済み	DM・ヘルスケア	持続血糖測定器	日	済み
	中間カテーテル（Sofia EX）	欧米			血糖測定システム	日	
	ミニ・バルーン	欧米			パッチ式インスリンポンプ	日	
	血栓吸引カテーテル	日			次期血圧計	日	
	ステントリーバー	日	済み		次期体温計	日	
CV	次世代人工肺	日		血液	細胞治療用充填・仕上げシステム（FINIA）	グローバル	済み
	人工心肺装置（再出荷）	日					
血管	大口径人工血管（トリプレックス・アドバンスド）	日					

# 心臓カテーテルの治療製品を拡充

---

米オーケストラ・バイオメド社から薬剤溶出バルーン

「Virtue」の独占販売権を取得(6月13日発表)



- 薬剤に冠動脈治療用DESに用いられるシロリムスを使用
- 従来品と異なり塗布方式ではなく、独自の薬剤溶出方式を採用。薬剤がはがれるリスクを低減
- 2019年4月、米FDAより「ブレイクスルー機器指定」を取得
- 一時金約3,000万米ドル、500万米ドルの出資 + マイルストーン、販売にともなうロイヤリティ
- 2020年に治験開始。数年後に米国で初の製造販売承認を目指す。グローバル展開を予定

# 参考資料

# 19年度Q1 事業別・地域別売上収益と伸長率

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	121 (+8%)	764 (+15%)	221 (+9%)	337 (+11%)	117 (+36%)	88 (+21%)	885 (+14%)
うちカテーテル※	92 (+9%)	632 (+17%)	180 (+10%)	267 (+14%)	111 (+37%)	74 (+21%)	724 (+16%)
ホスピタル	312 (+3%)	85 (+1%)	22 (+8%)	19 (+12%)	6 (-1%)	39 (-6%)	398 (+3%)
血液システム	25 (+2%)	217 (+1%)	58 (-2%)	104 (-1%)	13 (+9%)	42 (+9%)	242 (+1%)
合計	460 (+4%)	1,066 (+10%)	300 (+6%)	460 (+8%)	136 (+31%)	169 (+11%)	1,525 (+9%)

※ニューロバスキュラー事業含む  
( ) 内は為替影響除く前年比伸長率

# 販管費

(億円)

	18年度Q1	19年度Q1	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	217	219	+2	+1%	+3%
販促費	45	49	+4	+9%	+11%
物流費	32	35	+2	+7%	+9%
償却費	34	45*	+11	+32%	+33%
その他	107	97*	-10	-9%	-8%
<b>一般管理費計</b>	<b>435 (30.4%)</b>	<b>445 (29.2%)</b>	<b>+10</b>	<b>+2%</b>	<b>+4%</b>
<b>研究開発費</b>	<b>113 (7.9%)</b>	<b>118 (7.8%)</b>	<b>+5</b>	<b>+5%</b>	<b>+4%</b>
<b>販管費合計</b>	<b>548 (38.3%)</b>	<b>564 (37.0%)</b>	<b>+16</b>	<b>+3%</b>	<b>+4%</b>

\*償却費とその他において、IFRS16号（リース会計）により組み替え

# 四半期の動き

(億円)

	18年度Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	19年度Q1 (4-6月)
売上収益	1,430	1,420	1,586	1,559	1,525
売上総利益	799 (55.8%)	747 (52.6%)	876 (55.2%)	843 (54.1%)	852 (55.8%)
一般管理費	435 (30.4%)	435 (30.5%)	450 (28.4%)	467 (29.9%)	445 (29.2%)
研究開発費	113 (7.9%)	124 (8.8%)	123 (7.7%)	116 (7.5%)	118 (7.8%)
その他収益費用	8	29	6	21	4
営業利益	259 (18.1%)	217 (15.3%)	309 (19.5%)	282 (18.1%)	292 (19.1%)
調整後営業利益	305 (21.4%)	248 (17.4%)	359 (22.6%)	309 (19.9%)	339 (22.3%)

四半期	USD	109円	111円	113円	110円	110円
平均レート	EUR	130円	130円	129円	125円	123円

# 調整後営業利益：調整額

(億円)

	18年度Q1	19年度Q1
営業利益	259	292
調整① 買収無形資産の償却費	+38	+40
調整② 一時的な損益	+9	+8*
調整後営業利益	305	339

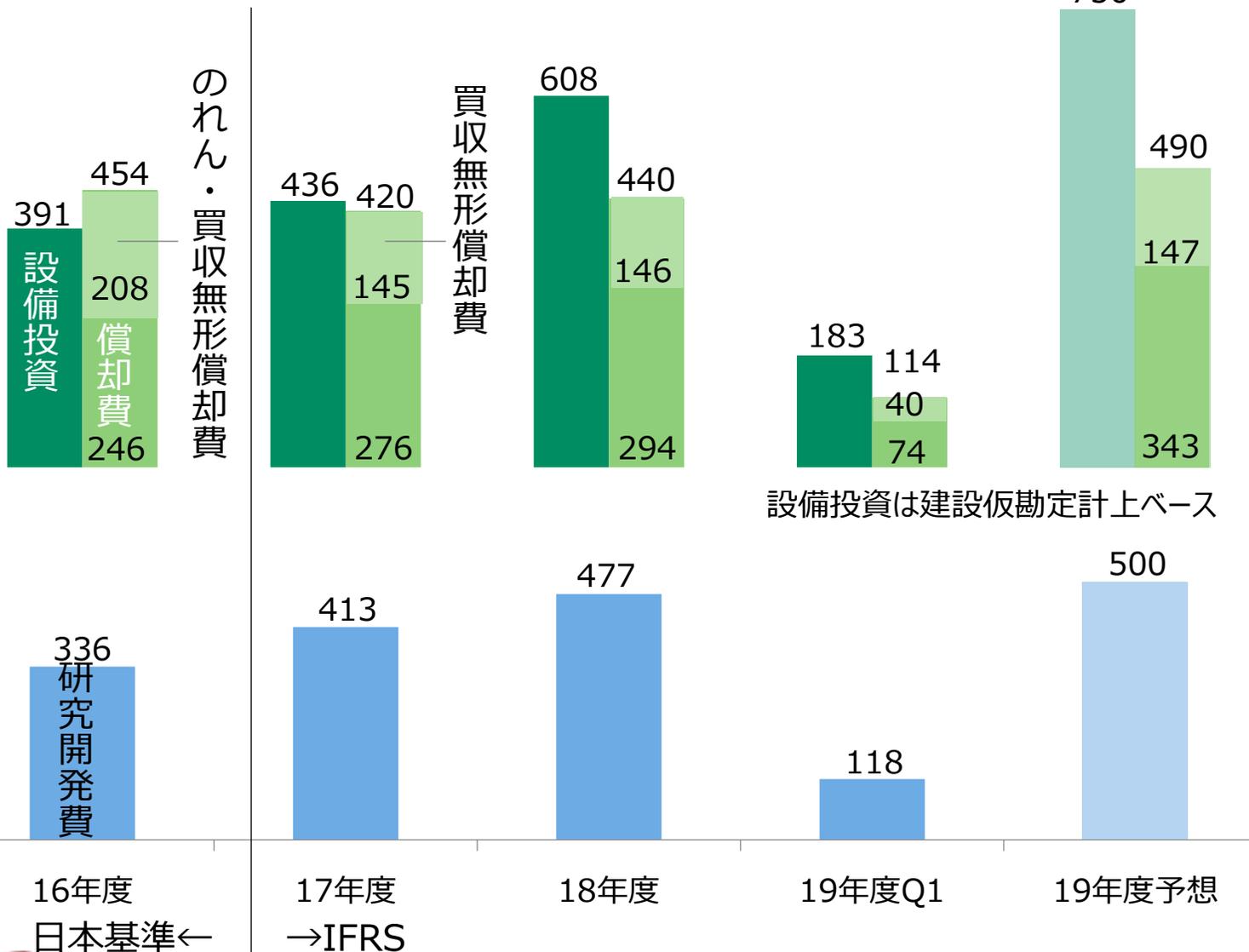
## 調整項目

- 買収関連費用
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な損益

* 19年度Q1 調整②「一時的な損益」の主な項目	調整額
事業再編コスト	+3

# 設備投資と研究開発費

(億円)



- 19年度は、増産設備、生産スペース、IT投資を拡大
- 17年度以降はIFRSベース
  - 買収以外の無形固定資産取得、開発費の資産化含む

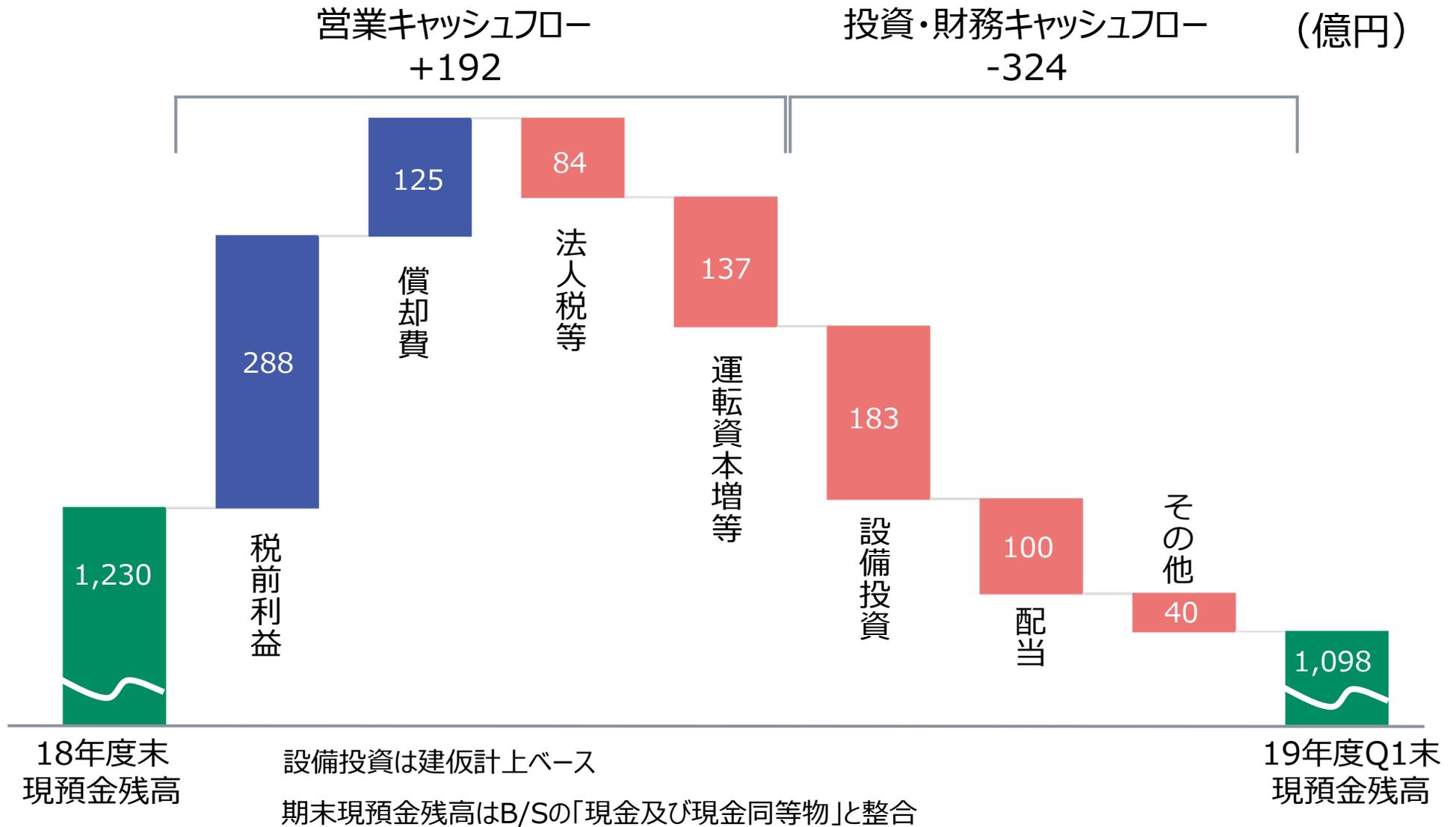
設備投資は建設仮勘定計上ベース

- 主にカテーテル・ニューロ・血液の開発活動を促進
- 開発費の資産化は設備投資に含む
  - 18年度 : 24
  - 19年度Q1 : 12
  - 19年度予想 : 32

16年度 日本基準←

17年度 →IFRS

# キャッシュフロー



# 為替感応度

1円の円安に対する年間影響額 (億円)

	USD	EUR	人民元
売上収益	17	8	22
調整後営業利益	0	5	12

<参考> 10%円安に動いた時のインパクト

	北米	中南米	欧州		アジア	
			ユーロ圏	その他	人民元	その他
調整後営業利益	-1	10	65	13	19	36

# 転換社債の状況

## ■ 社債明細 (2014年12月起債)

※2019年4月に実施した株式分割考慮

満期	発行額 (億円)	金利	転換価格 (円)	転換制限 価格 (円)	転換の場合 必要となる株数
2019年12月	500	0.0%	1,919	2,495	約26百万株
2021年12月	500	0.0%	1,919	2,495	約26百万株
計	1,000				約52百万株

## ■ 転換状況 (2019年7月31日時点)

対象社債	転換行使額 (対象社債総額比)	交付株数 (発行済株式総数比)
2019年12月満期	500.0億円(100.0%)	25.9百万株(3.4%)
2021年12月満期	252.4億円(50.5%)	13.1百万株(1.7%)
計	752.4億円(75.2%)	39.0百万株(5.1%)

### ➤ 転換行使による株式交付は自己株式を充当

- 自己株式の状況： 16.3百万株(2019年7月末時点、取得単価1,949円、発行済総数比2.2%)

# おことわり

---

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。